

とくしま市民遺産とは

徳島市には、眉山や吉野川のような美しい景観や、阿波おどりや人形浄瑠璃に代表される、すばらしい伝統文化があります。

しかし、普段の生活の中で見過ごされて、魅力や価値がありながら、それが十分に認識されていないものが、まだまだ街のあちこちに眠っているのではないのでしょうか。

徳島市では市制120周年を迎えるこの機会に改めて、そんな「掘り出しモノ」を広く募集し、その中から選定委員会による審査を行い45件の「とくしま市民遺産」を決定しました。

- 募集期間 平成21年8月1日～平成21年9月30日
- 応募総数 239件



発見!

とくしま市民遺産

45

～みんなで見つけた宝物～

とくしま市民遺産リスト

【自然・景観】		【歴史】		【街・暮らし】		【文化】	
名称	マツ	名称	マツ	名称	マツ	名称	マツ
眉山周辺の湧水	①-①	徳島城の石垣	①-④	大滝山界隈	①-⑤	通町のえびす祭り	①-⑪
眉山からの夜景	①-②	旧徳島城表御殿庭園	①-⑦	寺町一帯	①-⑥	瀧のやきもち	①-⑫
城山 (ホルトノキと城山貝塚)	①-③	金刀比羅神社の大灯籠	②-⑥	三河家住宅	①-⑧	徳島城内小屋掛 阿波人形浄瑠璃芝居	①-⑬
八多の五滝	②-①	一宮神社と一宮城跡	②-⑦	ひょうたん島クルーズ	①-⑨	ご所参り	②-⑮
権宮八幡神社のつつじ	②-②	袋井用水	②-⑧	旧高原ビル	①-⑩	福島橋の人柱伝説	③-⑨
弁天山	②-③	蔵珠院のまいこみ泉	②-⑨	ラジオ塔	①-⑭	狸の祠と民話	その他
鳴滝	②-④	高地蔵	②-⑩	ケンチョピア	①-⑮	お鯉さん	その他
権現さんの名水(御神水)	②-⑥	藩政時代の松並木	③-④	八万町夷山の町並み	②-⑪	藍染め	その他
シラスウナギ漁の風景	③-①	徳島藩主蜂須賀家墓所	③-⑤	こくふ街角博物館	②-⑫	阿波しじら織	その他
吉野川河口	③-②	蛭子神社の百度石	③-⑥	おとめ石の石垣	②-⑬	そば米汁	その他
吉野川北岸堤防からの眺め	③-③	四所神社の船だんじり	③-⑦	へんろみち	②-⑭	ポウゼの姿すし	その他
				吉野川橋	③-⑧		

とくしま市民遺産のホームページで、より詳しい紹介を見ることができます。
http://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/simin_isan/index.html

お問い合わせ

徳島市 市民環境部文化振興課

☎088-621-5178 e-mail: bunka_sinko@city.tokushima.lg.jp



あなたが見つけたいものはありますか?

徳島駅 周辺マップ



① 眉山周辺の湧水

徳島市の水の魅力

眉山周辺には、錦竜水・鳳翔水・八幡水・春日水・菩薩水・桐の水・蔵清水・雲龍水・青龍水など、多くの湧き水があり、上水道が普及する以前は、これらの湧き水が水売り商人によって運ばれ、周辺地域の人々の喉を潤していました。

② 眉山からの夜景

光で飾られた街がミニチュア模型のよう

眉山ロープウェイの山頂駅がある眉山公園の展望台からは、美しい夜景を眺めることができます。標高が高くないため、すぐ目の前に美しい中心市街地の夜景が広がります。

⑤ 大滝山界隈

歴史を感じる一画

眉山北麓の大滝山は神社が集まり、滝や岩、森厳な雰囲気のある石階段が歴史を感じさせます。また、石段の途中には明治3年徳島藩の重臣稲田家主従が北海道へ移住するきっかけとなった庚午事変の碑などがあります。

⑥ 寺町一帯

有名人の墓など、寺ごとに特色があり、歴史を感じる

多くの寺院が集まる寺町一帯は、徳島城下町の建設にあたって、本城のある城山に対して西方に位置する眉山の山麓、大滝山の山懐一帯に多くの寺院を集めて作った町です。モラエスや名妓夕霧など有名人の墓も多くあります。

⑨ ひょうたん島クルーズ

川から眺める街には、新しい発見があります

市内中心部に位置する、新町川と助任川に囲まれた、その形から「ひょうたん島」と呼ばれる中洲を周遊船で一周する「ひょうたん島クルーズ」。いくつもの橋をくぐり、美しく整備された川岸の公園やヨットハーバーの眺めが楽しめます。

⑩ 旧高原ビル

建築のデザインがすばらしい

昭和7年に建てられた鉄筋コンクリート3階建ての建物で、戦火を免れた貴重な建築物です。当時流行したスクラッチタイルの外壁やロマネスク風の装飾が残されています。登録有形文化財となっており、現在はギャラリーなどとして活用されています。



⑪ 通町のえびす祭り

「おいべっさん」のものすごい賑わい

通町の事代主神社のえびす祭りは、通称「おいべっさん」と呼ばれ、広く市民に愛されています。1月9日から11日の、祭りの3日間は通りの両側に露店が立ち並び、事代主神社の境内は参拝する人、福を受けようと福笹を求め、身動きもできないほどです。

⑫ 滝のやきもち

昔から人気の名物

眉山のふもと、多くの神社仏閣が並ぶ大滝山の一画の茶店に、「滝のやきもち」があります。米ともち米の粉を名水・錦竜水で練り、中にさらしあんを入れて焼いた菓子で、昔から花見や参拝に訪れた人などに親しまれています。

⑬ 徳島城内小屋掛 阿波人形浄瑠璃芝居

途絶えていた伝統を復活

江戸時代から明治にかけて盛んに行なわれていた、仮設の舞台「小屋掛」で行なう、阿波人形浄瑠璃芝居を復活させる催しです。毎年10月に徳島中央公園に仮設の舞台を作り、阿波人形浄瑠璃芝居の他、襖を次々と入替える「襖からくり」など多彩な舞台が繰り広げられます。

③ 城山(ホルトノキと城山貝塚)

市の中心部で自然と歴史が感じられる

かつて徳島城があった城山は、ほぼ全面が林に覆われており、その中で特に多いホルトノキは、「市の木」に制定されています。また、麓には徳島市出身の世界的な考古学者、鳥居龍蔵博士が発掘調査した城山貝塚があります。

④ 徳島城の石垣

様々な歴史が読み取れる

徳島城には、築城当時のものから後世に築かれたものまで様々な石垣が残されており、ほとんどが青石（阿波の青石）として有名）と赤石で築かれています。全国的にも珍しい折れ曲がり塀を支えた「舌石」や、あちこちに石工などによって刻まれた刻印が残されています。

⑦ 旧徳島城表御殿庭園

豪快な石組みが魅力

徳島城の表御殿の庭として、1600年頃に作られたと伝えられる豪壮な桃山様式の庭園です。青石を多用しているのと、内堀の海水を導入した潮入り庭園であるのが特徴です。枯山水にある中央で折れた青石橋は、初代藩主蜂須賀正鎮（よしげ）が踏み割ったという伝説があります。

⑧ 三河家住宅

貴重な戦前の西洋風建築

この建物は、医師・三河義行氏が、ドイツ貴族の邸宅や城郭などをモデルにして昭和3年に建築した鉄筋コンクリート住宅です。外観は北歐風で、大理石の階段やステンドグラス、タイルなど豪華なものが多く、国の重要文化財に指定されています。

⑭ ラジオ塔

昔は、ここに人が集まってラジオを聴いていた

ラジオ塔は、昭和戦前、ラジオを普及させるために全国の公園などに設置されたもので、徳島城内には昭和8年にNHKの徳島放送局が開局した際に設置されたと言われています。現在のラジオ塔は昭和58年に復元されたものです。

⑮ ケンチョピア

中心市街地にあるヨットハーバーは珍しい

徳島市の市街地の中心部、県庁の前にあるヨットハーバーは、その場所にちなんで「ケンチョピア」と呼ばれています。ここから眉山方面を眺めた景観は、県庁舎のレンガ色、ヨットの白、眉山の緑のコントラストが美しく、徳島市を代表する景観として親しまれています。

① はたごたき 八多の五滝

(推薦者の声)
美しい自然、ハイキングに最適

徳島市で最も高い中津峰山から流れる八多川に沿って山を登ると様々な滝を見ることが出来ます。「御来光の滝」「布引きの滝」「象の滝」「雌鳴の滝」「雄鳴の滝」で構成され、他にも多くの小さな滝が様々な表情を見せます。



② いのみやはちまんじんじや 椎宮八幡神社のつつじ

(推薦者の声)
色鮮やかな花の群生が見事


椎宮八幡神社は、大正末期に植えられた数百本のつつじで有名です。階段東側の斜面には、赤、白と交互に植えられたつつじが枝を大きく広げ、5月に開催されるつつじ祭りには多くの人が訪れます。



③ べんてんやま 弁天山

(推薦者の声)
日本一低い自然の山

弁天山は、標高6.1mの、国土地理院発行の地形図に載る自然の山としては、日本一低い山です。山開きやライトアップ、登頂証明書の発行など様々なイベントが行なわれ、多くの人が訪れています。



④ なるたき 鳴滝

(推薦者の声)
森厳な雰囲気のある滝

飯谷小学校前のバス停から、ほんの少し南の山際に入ったところに鳴滝があります。落差が約20mあり、水が絶えることなく、特に雨の後は水量が多く見事です。夏は緑、秋は紅葉と四季折々の風情が楽しめます。



⑤ こんげん めいすい(ごしんすい) 権現さんの名水(御神水)

(推薦者の声)
良質で水量豊富な湧き水

徳島市総合動植物公園の北東、山の中腹に鎮座する森神社(別名:権現さん)の境内には、自然の湧き水と、それを利用した行場があり、この湧き水は、ミネラル分が豊富な名水と評価されています。



広域マップ (西南部)



⑥ ことひらじんじや おおとうろう 金刀比羅神社の大灯籠

(推薦者の声)
大きさに驚かされる


「勢見のこんびらさん」として親しまれる金刀比羅神社の参道には、阿波藍商が寄進した石造りの大灯籠がそびえています。高さが約10メートルあり、石灯笼では国内最大級のもので、その灯りは津田港に入港する船の目標となっていました。



⑨ ぞうしゅいん 蔵珠院のまいごみ泉

(推薦者の声)
手で水が汲めた珍しい井戸


蔵珠院の庭園には、その形から、「まいごみ泉」、「栄螺(さざえ)の泉」などと呼ばれる井戸があります。これは地面を螺旋状に掘り下げたもので、現在は水はありませんが、かつては底へ下りて、手で水が汲めた珍しい井戸です。



⑬ おとめ石の石垣

(推薦者の声)
美しく優雅、先人の卓越した技法

論田・大原地区には、大神子石を積み上げて造った美しい石垣が多く残されています。大神子石とは、大神子海岸でとれる細長い円筒型の石で、藩政時代には、貴重な石として採取が禁止されたことから、「おとめ石」と呼ばれていました。



⑦ いちのみやしんじや いちのみやしよあつと 一宮神社と一宮城跡

(推薦者の声)
「国が丸く治まるように」という願いをこめた太鼓橋

一宮神社では江戸時代初期に建てられた本殿や、蜂須賀侯が入国の際に奉納したことに始まる太鼓橋を見ることができます。そこから600mほど山を登ったところにある一宮城跡は県下でも最大級の山城跡です。



⑩ たかじぞう 高地蔵

(推薦者の声)
洪水からお地藏さんを守っている

吉野川流域では洪水の際にはお地藏さんが水浸しないよう、高い台座のある「高地蔵」が数多く作られました。その中でも東黒田の高地蔵は高さ4.19mもあり、手を合わせる人々を見下ろす姿から「うつむき地藏さん」と呼ばれ親しまれています。



⑫ まちかどはくぶつかん こくふ街角博物館

(推薦者の声)
街角で気軽に歴史、文化に触れられる

こくふ街角博物館は、「みて、さわって、つくらんで」をテーマに、街角のどこにでもあるような、親しみが持て、身近に、気軽に楽しめる博物館です。阿波おどり期間中には、各館をめぐる観光バスツアーも実施しています。(阿波の藍染しじら館、阿波木偶館、阿波の名石・ひょうたん館、気延館、蚕の館、CATV館、天狗久資料館、徳島市立考古資料館など。)



⑭ へんろみち

(推薦者の声)
往時のおへんろさんが偲ばれる

「へんろみち」は四国八十八ヶ所参りの巡礼道です。徳島市では、一宮町、国府町の5か所の札所を巡って、佐古、大道を通り眉山の東側を通る道と、地蔵越をして眉山を越える道があります。へんろ道の所々には道しるべとなる「へんろ石」と呼ばれる石柱が残されています。



⑧ ふくろいようすい 袋井用水

(推薦者の声)
私財を投げ打って完成させた用水


元禄の頃、水不足に苦しむ村の庄屋、楠藤吉左衛門が、私財を投げ難工事の末、水源を発見しました。その後事業は子孫に引き継がれて用水は完成しました。現在、一帯は公園となっており、春には桜が見事です。



⑪ はちまんちようえびやま まちな 八万町夷山の町並み

(推薦者の声)
てくてくと散歩したい町並み


八万町の夷山地区などでは、高い石塀を設けている家が多くあります。もともとは洪水対策として積み上げられた石垣と石塀といわれていますが、細い道が迷路のようになって、不思議な風景が見られます。



⑮ こしよまい 五か所参り

(推薦者の声)
手軽なへんろ体験コース

徳島市内にある四国八十八ヶ所の5か所(大日寺、常楽寺、国分寺、観音寺、井戸寺)を巡る「五か所参り」は、1日で気軽にできる「あるきへんろ」として徳島市周辺では昔から親しまれています。



広域マップ ③ (東北部)



① シラスウナギ漁の風景

(推薦者の声)
漁船の灯りが幻想的

吉野川河口付近などでは、冬から晩春にかけて、海から川にそ上してくるウナギの幼魚であるシラスウナギの漁が行なわれています。夜間に川面を照らして漁を行なうため、光の列が広がる光景は冬の風物詩となっています。

② 吉野川河口

(推薦者の声)
雄大な景観と豊かな自然

四国を代表する河川である吉野川が紀伊水道へと流れ込む河口は、1.3キロもの川幅があり雄大な景観が広がっています。また、広大な砂州と干潟は、シギやチドリなどの渡り鳥が多く集まり、貴重な生物の生息地となっています。

③ 吉野川北岸堤防からの眺め

(推薦者の声)
眉山、吉野川、徳島市街の組み合わせが美しい

吉野川北岸堤防からの眺めは方向や、季節、時間によって違った趣きを見せ、徳島市を代表する景観として親しまれています。春には菜の花が彩りを添え、夕暮に川の上流に沈む夕日が川面を真っ赤に染める光景も絶景です。

④ 藩政時代の松並木

(推薦者の声)
歴史ある並木、水面に写った景色が素晴らしい

藩政時代に、福島川から助任川の川岸に植えられていたといわれる松並木が、大岡川の住吉島側と、助任川沿いの中徳島河畔緑地に残されており、川と緑が調和した美しい景観が見られます。

⑧ 吉野川橋

(推薦者の声)
徳島市のシンボル

応神町と上助任町を結んで吉野川にかかる吉野川橋は1928(昭和3)年に完成した全長1071mの曲弦トラス橋で、架設当時その長さは東洋一を誇っていました。吉野川の北岸から吉野川橋と眉山を眺めた風景は徳島市を代表する景観です。

⑨ 福島橋の人柱伝説

(推薦者の声)
伝説の橋台は今も残されています

旧福島橋には人柱の伝説があります。難工事がうまく行くようにと、工事を始める日に通りがかった僧に懇願したところ、僧は自ら犠牲となって人柱となり、橋は立派に完成したと伝えられています。当時の石積の橋台は、今も福島橋の中ほどから見る事ができます。



⑤ 徳島藩主蜂須賀家墓所

(推薦者の声)
スケールが大きく、整備されている

徳島藩主蜂須賀家には仏式の興源寺と儒式の万年山の2箇所の墓所があります。興源寺には、歴代藩主の墓があり、なかでも二代藩主興源院忠英の墓石は、高さが4.2mあり、無縫塔としては日本最大級のもので、また、佐吉山にある万年山墓所は、10代藩主重喜が新たに造成した、非常に珍しい儒式の墓所です。



⑥ 蛭子神社の百度石

(推薦者の声)
大地震は百年に一度くらいやってくと警告

沖洲の蛭子神社の百度石は、安政南海地震の教訓を後世に残すために建てられたと伝えられ、碑文には「人々が竹やぶに逃げた。船で逃げてはいけない。冷静に火を消すことも肝要」などと記されています。



⑦ 四所神社の船だんじり

(推薦者の声)
当時の職人達の技術水準の高さを偲ばせる

福島の四所神社の秋祭りでは、徳島藩の船団を模したと言われる、船だんじりが繰り出されます。また、船だんじりの上で子供達が叩く太鼓の打ち方は藩主の御座船が港に出入りする際に、打ち鳴らした太鼓の名残りとされています。

その他

狸の祠と民話

(推薦者の声)
徳島ならではの民話

徳島市には狸にまつわる民話が多く、中でも津田の六右衛門狸と小松島の金長狸が戦ったという「阿波の狸合戦」は有名です。街中の至るところに狸を祀った小さな祠があり、祠めぐりなどのイベントが開催されています。

お鯉さん

(推薦者の声)
阿波おどりのシンボリックな人

お鯉さんは、明治40年、徳島市に生まれ、14歳で芸妓になり、戦前戦後を通じて「お鯉」の芸名で活躍されました。100歳で亡くなられた平成20年まで「阿波よしこの」の第一人者として活躍され、平成19年には徳島市名誉市民の称号を贈られています。

阿波しじら織

(推薦者の声)
独特の縮みが特徴

阿波しじら織とは、布面に独特の縮みのある織物で、さわやかな肌ざわりから夏物衣料として人気があります。この織り方は、織りかけの布を、にわか雨に濡らしてしまった時に偶然できた縮みをヒントに、安宅町に住む海部ハナが考案したと言われています。

藍染め

(推薦者の声)
藍色は徳島のイメージカラー

徳島は藍染の染料となる蓼藍(たであい)の産地として、藩政時代から明治にかけて大変栄えました。その名残は藍場浜などの地名にも残されており、藍色は徳島のイメージカラーとして定着しています。

そば米汁

(推薦者の声)
他県には無い料理法

そば米汁はソバの実を茹で、殻を除いて乾燥した保存食です。そば米汁は、鶏肉、ニンジンなどとともに、茹でたそば米を塩、しょうゆのだいで味を調えたもので、ソバを粒のまま食べる習慣は珍しいものです。

ボウゼの姿ずし

(推薦者の声)
だんだん好きになる味

ボウゼとは徳島の方言で、一般的にはイボダイといわれるタイの仲間です。秋祭りのころ作られる、頭付きのままで背開きにしたボウゼを酢漬けにし、ずし飯を包んだ、ボウゼの姿ずしは、徳島独特のもので、